

**イベントのご案内**

平成27年5月15日

東京大学総合研究博物館

**「総合研究博物館における新研究現場展示『AMS 公開ラボ』竣工記念会」開催のお知らせ**

このたび東京大学総合研究博物館では、大学における知の生産現場を直接体感できる新展示「知の回廊」の一環として、最先端の加速器質量分析装置を展示室に配置した「AMS（注1）公開ラボ」を竣工いたしました。今般、装置の据え付け作業が終了し、放射性炭素の測定業務を開始いたしましたので関係者ならびに報道機関の皆様をお招きして、施設を見学頂き、その機能と新たな展示についてご紹介させて頂く機会を設けます。総合研究博物館では、2013年度に東京駅前丸の内口に位置するJPタワー内に「インターメディアテク」、2014年度には後楽園の宇宙ミュージアム「TeNQ」内に「太陽系物理学展/リサーチセンター」を開設し、大学博物館の可能性を追求して参りました。これらの成果をうけ、本郷キャンパスの総合研究博物館本館では、知の生産現場を直接的に体感できる新たな展示を展開する計画を進めております。今年度には、貴重な学術標本を直接ご覧いただける新たな展示も建設・公開し、日本を代表する知の生産者である東京大学の研究現場を広く一般の方々に体感して頂く情報発信装置としての機能を強化する予定です。今回お披露目する「AMS 公開ラボ」は、総合研究博物館が新たに展開する「研究現場展示」の嚆矢となる施設であります。つきましては、この機会に総合研究博物館にお運び頂き、本件について記事掲載およびイベント当日の取材等を是非お願いいたしたく、ご案内申し上げます。

（注1）AMS：主に放射性炭素（ $^{14}\text{C}$ ）を測定して、様々な有機物が何年前頃につくられたのかを決定する、年代測定のための加速器質量分析装置。放射性炭素は時間とともに $\beta$ 線という放射線を発しながら放射壊変し、窒素に変化する性質があり、その崩壊速度は、約5730年で放射性炭素が半分になる割合なので、炭素がふくまれている有機物（例えば、木炭や骨、貝殻など）を分析することで、その年代を決定することができる。

**記**

日 時：平成27年5月29日（金） 記者会見：16時～16時30分（15時半受付開始）  
記念式典：17時～17時30分  
懇談会：17時30分～18時30分  
場 所：東京大学本郷キャンパス 総合研究博物館（文京区本郷7-3-1）  
使用言語：日本語

【AMS 公開ラボの展示風景】

